

# 農業センター ニュース No. 63



東京都小笠原  
亜熱帯農業センター(父島)  
Tel.04998-2-2104  
Fax.04998-2-2565

営農研修所(母島)  
Tel.04998-3-2129  
Fax.04998-3-2006

畜産指導所(母島)  
Tel.04998-3-2275  
Fax.04998-3-2276

## 今年もセンターは農業振興を通じた地域貢献に取り組みます

あけましておめでとうございます。この元月を皆さまはいかがお過ごしでしょうか。

これまで、当センターは、亜熱帯気候という小笠原の特性を活用し、高い収益を実現できる農業を目指して試験研究に取り組んできました。現在、小笠原農業の収益の柱となっているパッションフルーツをはじめ、収益性の高いマンゴーや菊池レモンなど熱帯果樹や野菜類の安定生産に向けた技術の確立、作物に発生する病気への対処やアフリカマイマイなどの害虫による被害の防止の調査などを行っています。また、営農や畜産の経営指導にも力を入れて取り組んできました。

このような試験研究や経営指導は、農業生産者の皆さまのお力添えがなければ実現できません。これまでと同様、圃場を訪問させていただくなど、当センター事業へのご協力をお願いすることがありますが、ご理解を賜れば幸いです。

当然のことながら、この事業結果は小笠原農業の現場に還元して価値のあるものとなります。皆さまにおかれても、お気軽に当センターに足を運んでいただき、栽培方法などについてお尋ねいただければ、お役に立てる場面が増えると考えております。

また、昨年に引き続き、本年も試験研究施設公開を行い、広く当センターの業務をご紹介しながら農業について考えていただく場を提供したいと考えております。当日は、生産者と協力して苗木等の販売等も行う予定です。お一人でも多いご来場をお待ちしております。

同時に、当センターは、本来の使命である農業の試験研究活動を事業の中心に据えながらも、小笠原での環境学習や観光への貢献にも努めてまいります。今後3年ほどかけて、現在公開している展示園を再整備する予定であり、小笠原の環境学習の場としても、また、植生回復などの自然保護に向けた技術指導の場としても地域のお役に立っていく所存です。

今日の小笠原は、村をはじめとする関係団体や住民の方々が連携して、エコツーリズムの推進に挑戦していますが、これを、農業を振興させるチャンスと捉えることが可能ではないでしょうか。例えば、島内生産を増やし、地元消費者や宿泊施設等観光業者への販売を拡大する「地産地消」を推進することは、農業を振興させながら地域の活性化にもつながる取組みといえます。皆さまには、是非ともこの機会を活用していただきたいと思います。



平成18年の始まりにあたり、昨年に引き続き、皆さまのご支援賜りますことを当センターの職員一同からお願い申し上げます、年頭のあいさつとさせていただきます。

(産業課長：奥原)

## パッションフルーツの収穫後の色と品質

現在、パッションフルーツは成熟し自然落果したもの（ぼとり果）を収穫することが多くなっています。しかしすべての果実がきれいに着色しているとは限りません。また収穫のために棚下にネットを展張すると、収穫期の茎葉の管理が難しく棚下が暗くなるため、病害虫の発生程度や果皮の着色に影響するとも考えられます。そこで収穫時の果皮色がどの程度であれば出荷時まできれいに着色するかを検討しました。

調査には6月上旬に鉄骨ハウス内で手もぎ収穫した果実を用いました。収穫直後の果皮色を完全に着色したもの、果頂部がまだ緑であるもの、1/2程度着色したもの、3/4程度着色したもの、全体に緑色が強いもの、黄緑色～黄色がかったもの、の6段階に分類し、室内（28℃・明所）に静置した場合の果皮色と

果実品質の変化を調べました。

**果皮色**：収穫翌日から徐々に着色が進み、収穫2日後では～、収穫5日後では～まできれいな紫色の着色がみられました。はオレンジ色が強くなる傾向にありました(図1)。

**果実品質**：収穫2日後の糖度をみると、で若干低かったものの、果皮色による差はほとんどみられませんでした。は収穫5日後には糖度が低下しました。酸度は着色が良好なほど低く、また収穫後の日数が長いほど低くなりました(図2)。成熟するに従い、収穫後の品質の低下が速い傾向がみられました。

以上より、収穫時にある程度着色していれば、収穫数日後の果皮色や品質に影響しないことがわかりました。次回の収穫・調整時の参考にしてください。(丸田)

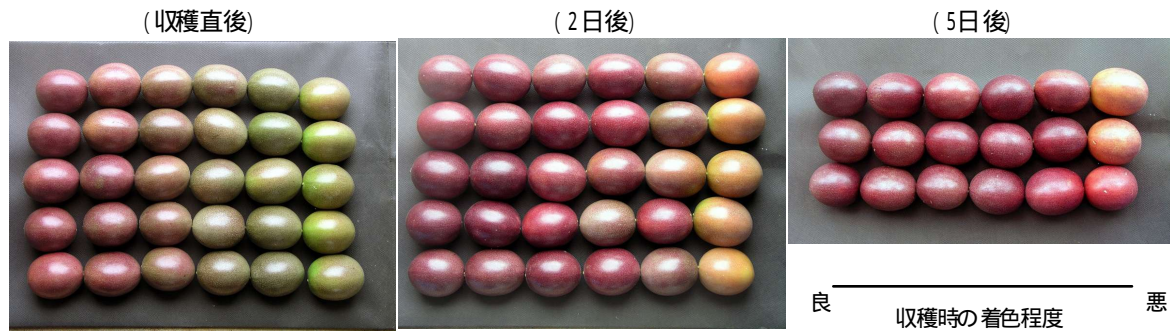


図1 収穫後の果皮色の変化

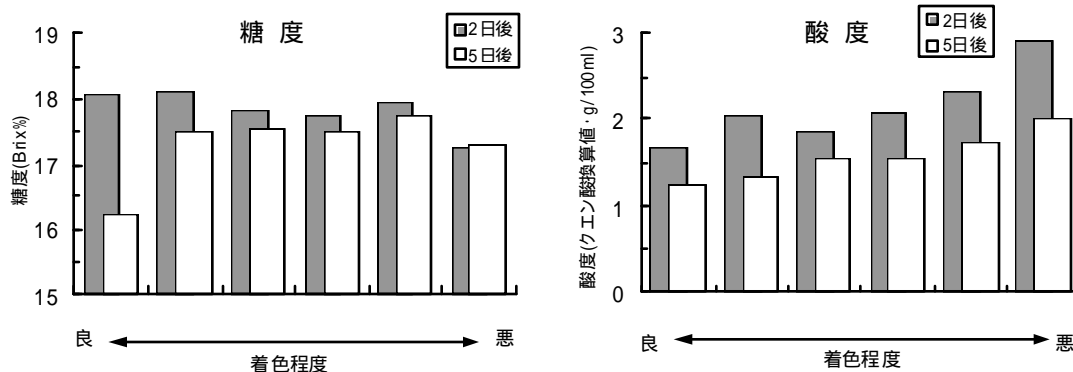


図2 果実品質の変化

## むし 2 題

今回は島の外からやってきた虫の話を2つご紹介いたします。

ひとつは、これまで記録の無かった虫で農業害虫としても懸念される存在で「フタテンミドリヒメヨコバイ」といいます。父島の湾岸道路や母島の都道沿いに植栽されているハイビスカスの葉が黄色く変色しチリチリと縮んでいるのに気がついた人がいるかもしれません。そんな被害をもたらした犯人がこの虫です。成虫は体長およそ3mmで、頭と胸は黄緑色、翅はほぼ白色で末端に一对の黒点があり、名前の由来になっています。幼虫は成虫と比べるとやや扁平な感じがします。ハイビスカス以外には、オクラやナスで被害が出ています。植物によって被害の様子に違いがあるようで、オクラでは葉がカップ状に巻き上がる症状がみられます。農業センターでは、今年の2月と10月に父島の都道沿いのハイビスカスの被害状況を調べました。その結果、大村の集落を中心に二見湾沿いの地域で激しい被害がみられました。また、10月に比べ2月に被害の程度が大きくなりました。ハイビスカスでは生育旺盛な時期には多少の虫害は隠されてしまうようです。この虫は新たに分布が記録されたということで東京都病害虫防除所により病害虫発生予察情報特殊報として報告されました。詳しくは同所のホームページ (<http://www.jpnn.ne.jp/tokyo>) をご覧下さい。



フタテンミドリヒメヨコバイ成虫

次は、チョウの話です。11月の中旬頃から島の外から飛んできたと思われるチョウが2種類見られ始めました。これから紹介するチョウは一時的に島に飛来する「迷蝶」と呼ばれるチョウです。迷蝶にもいろいろあり、北や南から来るもの、幼虫の食草があるので数世代は繁殖するものなどがあります。いま飛んできているチョウで前者に相当するのは「アサギマダラ」、後者は「リュウキュウムラサキ」という種類です。両方ともたいへん美しいチョウで、気流に乗って飛来してくると考えられています。アサギマダラは移動するチョウとして有名で、1980年からマーキング調査が行われ移動ルートが解明されています。両種の写真をよく見て下さい。アサギマダラの翅はぼろく、リュウキュウムラサキはほとんど傷がありません。これはおそらく、前者が飛来した個体自体であり、後者は島で繁殖した個体であると考えられます。



アサギマダラ



リュウキュウムラサキ

後者も結局、いつの間にか姿を消してしまいます。かつて別の迷蝶のカバマダラというチョウを飼育しようとして卵を採集したところ、ほとんどの卵から寄生蜂が出て、結局幼虫は孵りませんでした。これも彼らが定着できない原因かもしれません。 (農業センター所長：小谷野)

## 情報はインターネットで

小笠原でも、インターネットを活用し、情報収集・発信したり、商売を行っている方がたくさんおられます。今回は、農業関係の役に立ちそうなサイトをご紹介します。

### 東京農業WEBサイト

東京都と農業関係団体が協力し、昨年の6月に「東京農業WEBサイト」を開設しました。このサイトは、東京農業のポータルサイトとして、東京農業全般の紹介のほか、特産物の購入方法、観光農園、体験農園、農とのふれあいの場や各地のイベント、関連サイトなどの情報を紹介しています。様々な情報を幅広く発信することで、より多くの方に東京農業についての理解を深め、関心を持ってもらうことを目的としています。

東京特産品のコーナーでは、パッションフルーツ、マンゴー、レモン、パパイア、ドラゴンフルーツ等の小笠原特産の熱帯果樹が紹介されています。また、農産物やその加工品をネット上で販売している方は、今なら無料でリンク先として登録することができます。

東京農業WEBサイト

<http://www.tokyonogyo.jp/>

### 農薬ネット

正しい農薬の知識を身につけるサイトとして、初歩からある程度専門的な知識まで、分かりやすく論理的な解説がされています。この中の農薬掲示板は、非常に多岐にわたる話題について、農薬関係の業界人も参加して議論されているようで、農業者の方にとっても参考になると思います。

また、農薬の安全性について、自動車と比較

した、農薬のリスク(危険性)ベネフィット(便益)論は必見です。ぜひご覧下さい。

私も、農薬担当しているときには、大変参考にさせていただきました。

農薬について、もっと高度な内容の勉強をしたい方には、「農薬のお話」 <http://members.at.infoseek.co.jp/gregarina/> なども参考になるかと思います。

農薬ネット

<http://www.nouyakunet/index.html>

### アメリカ海軍の台風情報(英文)

既にご存じの方もたくさんおられるかと思いますが、このサイトは、気象庁より早い段階で、しかもかなり先まで台風進路等の予想を出しています。そのため、台風発生初期には小笠原方面に来るか参考になります。

アメリカ海軍の台風情報

<https://metoc.npmoc.navy.mil/jtwc.html>

その他にも農業関係のホームページは数多く存在します。インターネットを有効活用して、今後の生産、販売に利用してみたらいかがでしょうか?

(産業係長：大津)





## これからの農業は家族のルール作りから ～ 家族経営協定を結ぼう～

### 家族経営協定とは・・・

農業経営や生活の目標、役割分担などについて家族で話し合い、文書にまとめることです。「うちには必要ない」「今さら言葉にしなくても判り合っている」「協定なんか水くさい」そう思う方が多いでしょうが、本当にそれで良いのでしょうか？口約束では、話し合った内容が曖昧になりやすいので、文書にする事が必要です。目に見える形にすることで、誰もがいつでも確かめられ、守っていこうとする自覚が生まれます。それにより家族相互の理解が深まります。

家族だからこそ、気持ちよく働き、生活するための環境作り、ルール作り（家族経営協定）が必要なのです。それにより効率的な経営が行われ、職業としての農業経営が確立し、発展させる事が可能となります。

### 家族経営協定を結ぶと・・・

#### 1) 家族員の経営参画

将来の目標や役割分担などについて、家族の合意形成が図られ、各自が主体的に農業に取り組む事ができます。

#### 2) 農業後継者の確保・育成

就業条件などが明記されていることから、後

継者が就農しやすくなり、意欲も向上します。

#### 3) 女性・高齢者の役割の評価

女性や高齢者の役割が適切に評価されることにより、女性の地域社会や経営への参画、高齢者の生き甲斐づくりにつながります。

### 具体的な内容は・・・

どんな内容でもかまいませんが、最低限経営の目標（方針）、暮らしについての役割分担は盛り込んでおいたほうが良いでしょう。内容の一例として、

#### 1) 働くための条件

給料・労働時間・休日・作業環境・研修などへの参加

#### 2) 経営方針と計画

経営方針の協議や決定・役割分担

#### 3) スムーズな世代交代

後継者の育成・経営移譲・相続や贈与の対応・老後の生活

#### 4) 暮らし方

家事の役割分担・家計の管理・育児・介護、社会活動への参加

などが挙げられます。

より良い農業経営環境を作り出すために、家族経営協定について検討してみてください。

（営農研修所長：野地）

## 家族経営協定を結ぶ手順



1. 家族みんなで農業経営や生活について話し合い、現状を確認

2. 対応策を検討し、共通の目標を設定

3. 協定書を作成、立会人のもとで調印

## 新たな外来種による農作物被害を防ぐために

近年、外来生物による人的被害や生態系の乱れが問題となっています。かつて小笠原は、ミカンコミバエの侵入を許し、多大なる農業被害が生じました。現在でもアフリカマイマイによる農作物被害や衛生面の問題もあるように、多くの外来生物による被害が増えています。3ページで紹介したフタテンミドリヒメヨコバイも近年侵入した農作物の害虫です。虫だけではなく病原菌も注意しなければなりません。病原菌は虫と違って肉眼では見えず、どこに潜んでいるかは判りにくいものです。いずれも、一度発生・蔓延すると根絶は極めて困難であり、特に熱帯果樹などのマイナー作物では登録農薬が限

られているため、防除できなくなる可能性が充分考えられます。

植物の病害虫蔓延を阻止するために植物防疫法があり、小笠原からは持ち出しに関する規制はありますが、持込みに関する規制はありません。したがって、気付かずに植物などと共に新たな病害虫が侵入し、多大なる被害が生じる可能性も考えられます。これらの病害虫の持込みを防ぐには細心の注意が必要です。病害虫の発生地から持ち込んでないか、虫や病気の付着がないかなどをチェックしてください。生育の異常などが観察されたらすぐに農業センター、営農研修所にご相談ください。(小野)

## ミカンサビダニに注意！

父島でミカンサビダニによる被害が見受けられました。カンキツ果実の表面が茶色に変色し、ガサガサになる症状で見栄えが悪くなります。肥大初期に被害にあうと肥大が停止してしまいます。いずれも商品価値がなくなってしまいます。現在、サビダニ自身は見られず、みられている症状は、夏に被害を受けた果実であると考えられています。被害果への対応策はもうありませんが、また来年発生する事が考えられます。サビダニは非常に小さく、ルーペなどがないと観察困難です。夏ごろ、特に梅雨明け頃に注意

して、早めに薬剤散布などを行うように心がけてください。



ミカンサビダニによる被害果

(小野)

農業センターニュースは電子メールでも配信しております。電子メールでの配信希望の方は、ogawara-nouse@tree.odn.ne.jp までご連絡ください(PDFファイルで送信しています)。すでに電子メールでの送信を登録している方は再度ご連絡の必要はありません。